

自分のことを「ばばあ」と呼ぶのは、謙遜ではなく、傲慢。

ときどき自分のことを「ばばあ」と呼ぶ女性がいます。

「おばさん」なら、まだいいのです。

「おばさん」という言い方は一般的であり、普段からよく使われる言葉です。

ときどき言いすぎることもあるかもしれませんが、さほど目くじらを立てるほどでもないでしょう。



しかし「ばばあ」という言い方はよくありません。

謙遜のつもりで「私はばばあだからね」と言っているか。

「あなたのほうが美しいです」

「私には、若いころのような美しさはありません」

「私より美しい人はたくさんいます」

わざと自分を低く表現したいのかもしれませんが。

謙遜の意味で使っていれば、自分を卑下しているだけに思えます。

相手に遠慮して、控えめに振る舞っているだけに思えるかもしれませんが、注意したい一言です。

実際のところ、まったく謙遜になっていないからです。

●実際は謙遜どころか傲慢な発言になっている

同じ年齢の女性が「私はばばあ」という発言を聞いたとき、どう思うでしょうか。

「私はばばあだからね」

これは大変失礼な発言です。

自分はよくても、周りが受ける印象を考えてみてください。

「ばばあ」と卑下した発言は「女性の価値は年齢と美しさで決まる」と言っているように聞こえます。「年齢を重ねるのは悪いこと」「美を失った女性には価値がない」というふうに聞こえます。誤解を招きやすい発言であり、スマートではありません。

そばに年配女性がいれば、価値の低い人間として扱われているように感じて、不快な思いをしましょう。

女性にとって美しさは大切な要素ですが、それですべてが決まるわけではありません。自分は謙遜のつもりでも、実際は傲慢な発言になっているのです。

そもそも「ばばあ」という呼び方には品がありません。

一般的に「ばばあ」という言葉は、年配女性をののしるときに使う言葉であり、悪い印象しかありません。

とげとげしさがあり、誰が聞いてもむっとします。

響きも印象も悪く、不快感があり、余計な誤解まで招きます。

同じ女性から嫌われてしまい、余計な敵を増やすことになるでしょう。

「私はばばあ」と言えば言うほど、本人が醜く見えるでしょう。

「私はばばあ」と言う人は、その言葉のとおり、老けるのも早くなるのです。

心当たりがあるなら、今すぐ禁句にしましょう。

淑女らしくない発言であるのは間違いありません。

たとえ謙遜のつもりであっても、使わないのが正解です。

人間関係で注意したい余計な一言 その17

謙遜のつもりで、自分のことを「ばばあ」と呼ぶのはやめる。